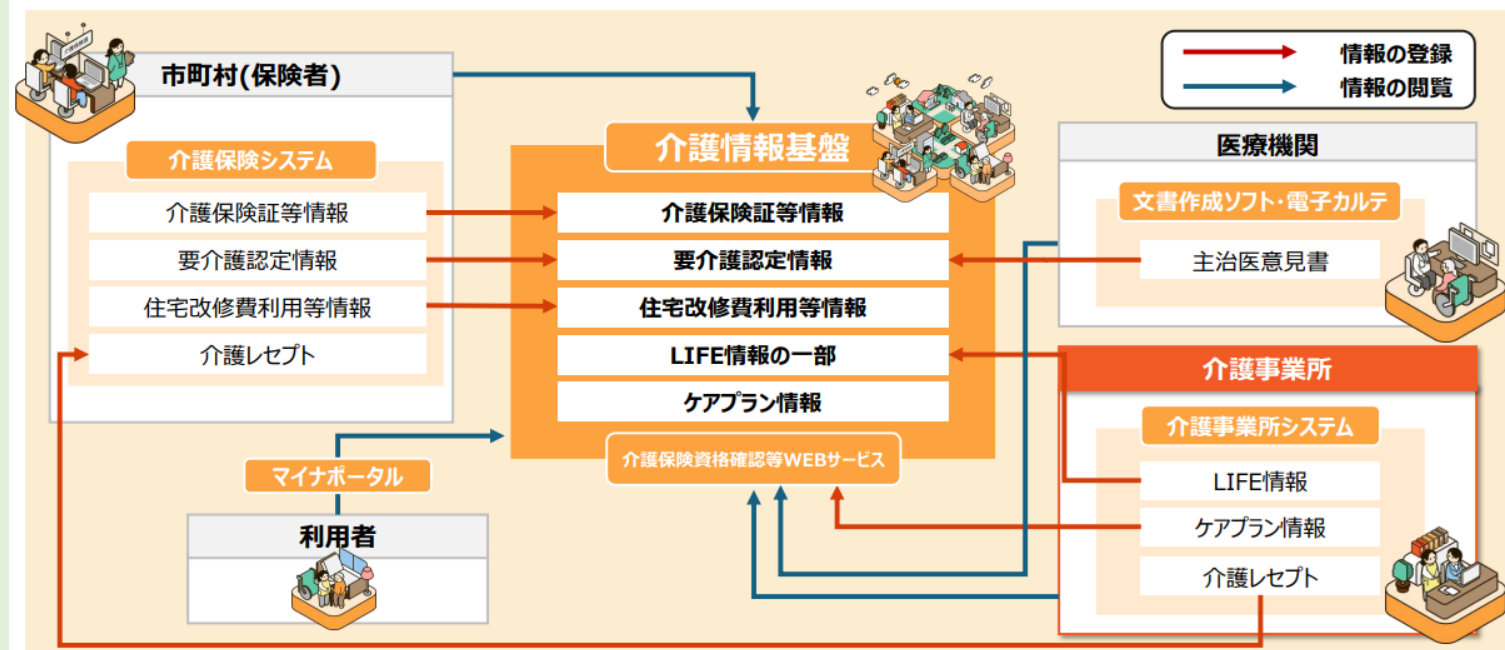


# 『介護情報基盤』 概要のご案内

## 1、介護情報基盤の概念図

介護に関わる各システムの情報が、介護情報基盤に集まり、閲覧・登録・管理できるようになります。



※ ”えがおシリーズ”は、『介護情報基盤』に対応を予定しています。  
LIFE情報・ケアプラン情報には既にリリースしています。

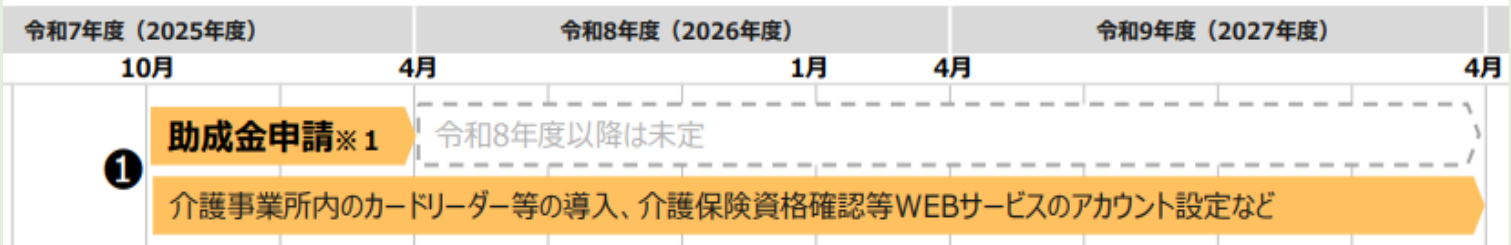
## 2、具体的な業務の変化（資格情報等の確認・要介護度認定事務）

これまで	これから
<p><b>給付に必要な証書の収集</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>負担割合証、限度額認定証等、給付に必要な情報を<b>利用者や家族に探してもらう</b></li></ul>	<p><b>給付に必要な証書の収集</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>負担割合証、限度額認定証等、給付に必要な情報は<b>介護保険資格確認等WEBサービスで即座に確認が可能となる</b> (介護保険資格確認等WEBサービスは以下「介護WEBサービス」という)</li></ul>
<p><b>証書の更新確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>限度額認定証等、年に1度更新があるものについては、<b>更新の度に利用者の自宅に届く証の内容を確認する必要がある</b></li></ul>	<p><b>証書の更新確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>更新された内容も<b>介護WEBサービスで容易に確認が可能となる</b></li></ul>
<p><b>認定進捗の確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>認定結果を待ち、遅い場合は電話や窓口等で自治体に<b>進捗確認の問い合わせを行う負担がある</b></li></ul>	<p><b>認定進捗の確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>認定審査期間中の進捗確認は介護WEBサービス経由で<b>職員でも確認できる</b> (利用者ご本人もマイナポータル経由で確認可能)</li></ul>
<p><b>認定結果の受領・確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li><b>利用者の自宅に訪問し、書面で送られてくる要介護度を確認する</b></li></ul>	<p><b>認定結果の受領・確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>要介護度が決定したら、介護WEBサービス経由で<b>更新された情報を、すぐ確認</b>できる</li></ul>
<p><b>認定関連書類の取得</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>ケアプラン作成に必要な認定関連書類（認定調査、主治医意見書等）を窓口・郵送で受け取り、書類を参考にケアプランの作成を行う</li></ul>	<p><b>認定関連書類の取得</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>ケアプラン作成に必要な認定関連書類（認定調査、主治医意見書等）は、介護WEBサービス経由で<b>ケアマネジャー等が確認</b>できる (窓口・郵送での受取が不要となる)</li></ul>

3、今後のスケジュール

本格運用開始日：令和10年4月1日

- Step1: 介護情報基盤との連携機能を含めた介護保険システムの標準化対応を令和9年1月1日までに完了します。
- Step2: 介護保険事務システムの標準化対応の終了後、介護情報基盤へのデータ送信を行います。
- Step3: 市町村のデータ送信が完了次第、介護情報基盤を活用した介護情報の共有が可能になります。



4、助成対象経費

- ①、カードリーダーの購入費用
- ②、介護情報基盤との接続サポート等経費
- 介護保険資格確認等WEBサービスを利用する際に必要となるクライアント証明書の搭載等の端末設定について、技術的支援を受ける場合に要する経費。

5. 助成限度額等（訪問・通所・短期滞在系）

カードリーダーの助成限度台数：3台まで

助成限度額：64,000円まで（助成対象経費①・②を合算した額）

6、助成金申請の流れ（訪問・通所・短期滞在系）

